

生物多様性クレジットの世界動向と今後の展望

～測定方法、透明性、地域コミュニティの関与～

— 講師 —

株式会社農林中金総合研究所

リサーチ&ソリューション第2部 主任研究員 安藤 範親 氏

日時 2025年1月31日(金) 午後4時～6時
受講方法 会場受講／ライブ配信／アーカイブ配信(2週間、何度でもご視聴可)
会場 SSK セミナールーム 東京都港区西新橋2-6-2 ザイマックス西新橋ビル4F

[重点講義内容]

近年は、カーボンクレジットの取り組みに加えて、生物多様性クレジットが新たに注目され始めています。生物多様性クレジットは、生物多様性の保全活動に対して資金を提供する手段であり、カーボンクレジットと相互補完的な役割も果たしています。

欧州各国やブラジル、オーストラリア、ニュージーランドなどでは、生物多様性クレジット市場の開拓が進みつつあり、2030年には市場規模が20億ドル、2050年には690億ドルに達する可能性が示唆されています。一方で、市場の信頼性確保や測定手法の多様性、データ収集コストなどの課題も残されています。今後は、国際的な枠組みの透明性や規制の整備が求められ、市場発展に向けた環境整備が期待されます。

当セミナーでは、各国および各プロジェクトの取り組みを通じて、生物多様性クレジットの最新動向について報告いたします。

1. カーボンクレジットと生物多様性クレジットの関係
2. 日本の生物多様性に関する取組動向
3. 世界の生物多様性クレジットの動向
4. 世界の生物多様性クレジットの測定・算出方法
5. 生物多様性クレジットの課題と展望
6. 質疑応答／名刺交換

PROFILE 安藤 範親 (あんどう のりちか) 氏

2010年 農林中金総研入社、調査第二部にて国内のマクロ経済分析を担当後、2013年より基礎研究部にて、林業・林産業の研究を担当。2023年よりリサーチ&ソリューション第2部所属。

活動等: 木材利用システム研究会や WSN(ウッドソリューション・ネットワーク)等の活動に従事しているほか、近年はウッドショックや ESG をテーマとした講演多数。林業・木材利用にかかわる専門家として幅広い分野の委員を担当。林野庁「生物多様性保全に資する森林管理のあり方に関する検討会」委員(23年11月～24年3月)。林野庁補助事業「CLT・LVL等の建築物への利用環境整備事業」委員(21年9月～24年3月)。林野庁補助事業「外国人材の能力評価等に関する専門委員会」委員(23年1月～24年3月)。木材利用推進中央協議会「木材利用優良施設コンクール」委員(22年～)。

